

一富士、二鷹、三茄子とて、これらを夢に見るを吉徴とす、その子細をしらず、笈埃隨筆に或人いふ、この三事、夢の判にあらず、皆駿州の名産の次第をいふ事なり、中とみえたり、しかるに唐土にては茄子を夢に見る事を忌なり、宋の樓鑰が攻媿集七十に、劉允叔夢茄子而作舍萌題、其後して云、退之送窮而延上坐、子厚乞巧而甘抱拙、若允叔之舍萌、則真驅之、雖未能絕紫瓜之生、畏君之詞、自爾當不復敢入吾夢矣、然此種一名不落、彼夢滿瓶三顆、不妨甲科釋褐者、殆以此、略下

〔日本書紀神武〕戊午年六月天皇曰、此鳥之來、自叶祥夢、略下

〔文德實錄五〕仁壽三年九月丙申、是日僧正延祥大法師卒、略中 師事僧正護命、略中 延曆七年、略中 護

命問延祥曰、汝有夢乎、答曰、有之、護命曰、爲我言之、延祥曰、夢臥七重塔上、爾時三日並出、光照身上、護命曰、吉、不可言、慎勿語人、

〔古事談臣節〕業房龜王兵衛之時、夢ニ御前ヲ奉被追却門外へ被追出ト見テ、後朝康頼ニカ、ル夢ヲミツル、年始ニフクタノシキ事也ト云ケレバ、康頼云、極吉夢也、可任勅負尉之夢也、勅負陣門外之故云々、果十ケ日中、拜左衛門尉云々、

〔未平記六〕民部卿三位局御夢想事

民部卿三位殿、略中 少シ御目睡有ケル、其夜北野ノ御夢ニ、略中 此老翁世ニ哀ナル氣色ニテ、云ヒ出セル詞ハ、無テ持タル梅ノ花ヲ、御前ニ指置テ立歸ケリ、不思議ヤト思召テ、御覽ズレバ、一首ノ歌ヲ短冊ニカケリ、

廻リキテ、遂ニスムベキ月影ノシバシ陰ルヲ、何嘆クラン、御夢覺テ、歌ノ心ヲ案ジ給ニ、君醒酬後遂ニ還幸成テ、雲ノ上ニ住マセ可給瑞夢也ト、憑敷思召ケリ、

〔運歩色葉集阿〕惡夢

〔榮花物語二十九〕むまの入道の君顯信原は、はじめ山に無動寺におはせしかど、後は大原にてす